

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

新春号
2021 No.13

ご自由にお取りください



特集
1 牛 鬼

特集
2 宇和島のダ・ヴィンチ、と呼ばれた鬼才
「牛鬼」作家 河野一水

インタビュー 絵本作家 イラストレーター ありま三なこ

C o n t e n t s

- 01 エッセイ 「僕が牛鬼だった頃」 矢間 大蔵
- 02 インタビュー 絵本作家 イラストレーター ありま三なこ
「まだまだ、やりたいことが、たくさんあります。」
- 04 撮り歩きなんよ 「だるま夕日」 写真家 北濱 一男
- 05 **特集1 牛鬼**
- 06 牛鬼とは何ぞや?? —牛鬼の歴史と地域差— 愛媛県歴史文化博物館 大本敬久
- 08 牛鬼のこと 09 牛鬼色々 10 牛鬼 areyakoreya **プレゼントあり** 12 丸穂牛鬼保存会
- 13 伝統の張子牛鬼づくり 14 ミニ牛鬼頭づくり (大村仁志) 趣味の牛鬼頭づくり (山下宗一)
- 15 **特集2** 宇和島のダ・ヴィンチ、と呼ばれた鬼才 「牛鬼」作家 河野一水
- 18 鐵女 やましたあやこ & 鉄道カメラマン つぼうちまさみ **予土線特集やりよります 3**
- 22 うわしん若手経営塾OB 若だんな・女将② 宇和島被服(株) 代表取締役 山本 篤
- 23 ツナグ昭和館 お城山 一宇和島・パリ雑感— 田部 司
- 24 南予の祭り歳時記「高山の潮垢離」 愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員 大本 敬久
- 25 新型コロナウイルス感染症とマスクの効果 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆
- 26 新型コロナウイルスの感染拡大から学ぶこと! その2 広島修道大学 教授 藤井 文子



表紙 / 「七福神」
作 / ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ、愛媛県宇和島市出身。
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作でしかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす。
現在は個展やイベントへの出品等で活動中。



津島山財ダムのオシドリ (撮影/北濱一男)



つなぐ新春号 No.13

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-21
0895-23-7000

年4回発行 (季刊誌)

配布先 / 宇和島信用金庫各支店ほか

発行 / 宇和島信用金庫

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

世界中でいま、牛鬼が欠乏している。

コロナのせいである。僕の知る限りこの1年、地球上にほとんど一体の牛鬼も現れなかった。欠乏のあまり「うしおに…、うしおに…」と夜な夜な徘徊する人も世界中で増えていることだ。マジで、マジで（ウソ）。

それはそれとして。丑年にあたり「つなぐ」が牛鬼特集をするというので、それが大変嬉しく、ブーヤレブーヤレと今回も牛鬼について書いてしまう。僕がいかに牛鬼を愛してきたか。その原初の記憶まで遡って書いてしまう。

両親が共働きだったため、僕は生まれてすぐ保育園へ通った。かつて丸穂にあった「あゆみ園」という保育園へ通ったが、通園の途中、辰野川のほとりに「宮川はりこ」という店があつて、必ず立ち寄った。なにをするかというと、ただじつと店の中をのぞくのである。なぜかと言えば、そこが「牛鬼の頭（カブ）」を作る専門店であり、あわせて、おもちゃの小さな「牛鬼のはりこ細工」を作る店でもあつて、職人さんが、それらの品々を作る様子見るのが僕にとつて楽しくてたまらなかったからだ。

僕は牛鬼が好きだった。たとえば保育園でも、家でも、「さあ、お絵かきをししましょう」と言われたら大体牛鬼を描いて



僕が牛鬼だった頃

矢間 大蔵

いた。ホウキや、ハタキなど、長いものを持つと、それが牛鬼の首に見えてブルブルと振るくせがあつた。よくヤンキーが龍や虎を背負ったスカジャンや特攻服を来たがるが、僕は、できたら牛鬼を背負いたいと思い、かつそこに「夜露死苦（よろしく）」などと刺繍したいと思つていた。なんでも牛鬼が町を練り歩く時に見せる、あの雄大な「けれん味」に、男として魅せられたものであろう。

※1) 手のひら
それだから、いつも僕は「宮川はりこ」謹製の牛鬼のおもちゃで遊んでいた。たなごころに収まるような小さな牛鬼でも、目の前へかざすとあたかも巨大な牛鬼と同じに見える。「公会堂を出発して、鳩

※2) 丸之内和霊神社
ぼつぼの辻を曲がって、商店街を下つて牛鬼がゆく。僕の手のひらの中には、毎日、和霊大祭があつた。

あまつさえ興が乗るとそれを持つて外へ飛び出し、生家のあつた丸之内1丁目の路地裏を、小さな牛鬼をかざして「わっしょい、わっしょい」といいながら練り歩く。そして「のびきクリーニング（正式な店名は忘れました）」とか「白十字のパン」とか「むらさめ」なんかの扉をあけて「もうひとつうけに、どりゅわーっ」とつつこんでいく。懐かしい、あの頃のあの辺りの昼下がりに。「むらさめ」からは、いつも、いなり寿司のいい匂い

※3) 竹をあらく交差させてつくった囲い
がした。「木屋旅館」の竹矢来には狎（ちん）が繋がれていた。「ヤザマさんこの子は、本当に牛鬼がすきなんやねえ」とみんなが言つた。首をつつこむと「厄がおちたてや」と賽銭をくれる人までいた。とにかく僕は変わった子だった。そして、要するに僕は宇和島を愛していたのだつた。

と、これくらい牛鬼好きの僕が、あなた、一年間「牛鬼断ち」の憂き目にあつてごらんさい。「うしおに…うしおに…」と夜更けに徘徊しても仕方がないでしょう。とにかく頼むから今年は「脱コロナ元年」となつてほしい！そして夏秋には、つつがなく、大好きな牛鬼と再会できますように。



矢間 大蔵 やざま だいぞう

1974年 宇和島生まれ
宇和島南高等学校卒業後、和歌山の大学へ進学し、卒業後は大阪府の広告代理店に就職。コピーライターおよび商業筆文字師として活動。2014年4月、農業を志し、地域おこし協力隊として愛媛県松野町へ移住。3年間の任期を終えた2017年4月より4500平米の桃農家と町の移住コーディネーターを兼務。またFMがいの「ワッツアップ！まつの」パーソナリティーとしても活躍中。

写真／北濱一男

まだまだ、やりたいことが、たくさんあります。

絵本作家 イラストレーター << ARIMA MINAKO ありま三なこ

つなぐ創刊以来、表紙絵をお願いしている「ありま三なこ」さんだが、3年ぶりとなる地元宇和島での個展開催にあわせてお話を伺った。

子どもの頃からいつも絵を描いていたが、運動神経抜群で身体を動かすことも大好きだったので、ごく自然にバレーボールを始める。それから、バレーボールが常に生活の中心にあった。宇和島南高等学校（現・宇和島南中等教育学校）へ進んでも、バレーボール部ではキャプテンをつとめ、周りの人たちも次第に彼女が「絵を描く」という事を忘れていった。

高校卒業後、インテリアコーディネーターを目指して武庫川女子大の生活環境学科へ進み、卒業制作に選んだのが、当時ちよっとしたブームになっていた「仕掛け絵本」だった。子どもの頃から絵には自信があったものの、作り方は、さっぱり分らない。そこで書店へ行き、気に入った「仕掛け絵本」を何冊か購入し、仕組みを調べることから始めた。

テーマは、すぐに決まったもののストーリーづくりは3ヶ月もかかってしまった。そして、久しぶりに思うがままに絵筆を走らせているうちに「店舗の設計やインテリアのようなど大きなモノより、これくらいのモノ

ノづくりがいい」と思う自分がいた。就職してから絵本への思いは冷めるどころか、ますます強まってきた。絵本について学びたいと真剣に考えるようになっていった。結局、会社は1年で退社し、本格的に絵本の勉強を始めることになる。

それから5年が過ぎたある日、先生から「そろそろコンペに挑戦してみたら？」と背中を押されて応募したのが絵本コンペの登竜門と呼ばれていた「第8回『絵本大賞』」だ。応募した「ウォールズ」は、壁のまわりにいろいろな生き物が集まり、その壁について語り始める。壁に支えられたり、助けられたり・・・思いつく出をそれぞれに語り合うストーリー。

腕試しのつもりで応募した作品だったが、見事、大賞を受賞、絵本作家として華々しいデビューを飾ることとなる。

今から3年前、宇和島での個展の直前、しかも制作の最中に「東京へ行こう」と、ひらめいた。不安もあったが、東京でどんな化学反応が起こるだろうか？と考えるだけでワクワクした。とは言え、東京へ移住するのは一大事、帰省したついでに色々な人に相談したが、誰一人、反対する人はいなく、むしろ背中を押してくれた。

※2008年にフジテレビ KIDS、BS フジ、ポニーキャニオン、扶桑社が創設した絵本大賞

上京して間もなく、企業向けのイベントに出展したところ、大きい仕事は何個か決まって1年間は締切りとの戦いだだった。その結果のひとつがNHK（Eテレ）の「えいごであそぼ with Otton」での初アニメーション作品だ。放送されることを知らせていない人からも連絡があったり、テレビの反響の大きさに驚かされた。以降、この実績を足がかりに順調に企業からの仕事が入るようになったが、こんな案件仕事の場合、単発がほとんどなので、完成した後は常に不安が付きまとうと言うが、これは、クリエイターの誰もが抱える悩みなのかも知れない。

今回の個展では、前回と違った新たな「ありま三なこ」を観ていただきたいと、作品はもとよりクイズやくじ引きなどでも趣向を凝らせた。開展前は、コロナ禍ということもあり、来場者は少ないだろうと思っていたが、そんな心配をよそに初日から大勢の人が押し寄せ大盛況のうちに開展した。

絵本作家という肩書をもつ彼女だが、もとより絵本への固執は全くない。とは言え、絵本作品を期待する声は大きく、第2弾が世に出るのもそう遠くはないのかも知れない。



「ありま三なこグッズ」

<https://arima3nako.base.shop/>

今後について聞くと「まだまだ、やりたいことが山ほどあります。今までは個展で何かとバタバタしていたので、今から腰をすえて、それらに挑戦したいと思っています。具体的には、パッケージデザインや飲食関係の仕事にも挑戦したいですし、自分が住んだ事のない場所で開催やライブペインティングができれば素敵ですね。そして、いつの日かふるさとへの恩返しとして、宇和島での私の個展に遠くから泊まりがけで多くの方が来てくださるようになればいいなと思っています」と笑顔でこたえてくれた。



昨年 10 月に宇和島市のグランフジ北宇和島店で開催された個展「ファンタサイズ」会場にて

《ユニクロの UTme マーケットでありま三なこさんが着ているオリジナル T シャツが購入出来ます。 <https://www.arima3nako.com/shop>》

プロフィール／ 1987 年 2 月生まれ 宇和島市出身 武庫川女子大学生活環境学科卒業
大学の卒業制作で「しかけ絵本」を作ったことがきっかけで絵本に興味を持つ。一般企業に入社したものの、絵本を学びたいという思いを諦めきれず退社。2016 年に絵本のコンペで大賞を受賞し、晴れて絵本作家デビューを果たす。絵本やイラストの他にロゴやキャラクター制作、ライブペイントなどで活動中。



@arima3nako



撮り歩きなんよ

北濱一男が撮りためた南予の風景



深浦のアオサギと夕日（撮影 10 月 31 日）



覗き岩と九島の間に沈むだるま夕日（撮影 4 月 7 日）

だるま夕日

だるま夕日が見られるのは大気と海水の気温差が大きく、島が浮いて見えるようなときです。気象条件に左右されるので必ず撮影できるとは限りません。それでも、ひょっとしたらと常連さん達は通います。そんな時に出了た夕日は格別です。吉田町白浦から深浦で、だるま夕日が見られるのは 10 月末から 11 月上旬と 2 月の上旬ころです。特に 2 月は、気温が低いので見られる確率は高くなりカメラマンも増えます。10 月 31 日、深浦の防波堤で撮った写真は磯の上にアオサギがとまって脇役になってくれました。防波堤だけでも 8 人ほどのカメラマンが三脚を並べ、100m ほど後方からそのカメラマンたちを入れて夕日を狙う数人のカメラマンもいました。また、4 月上旬になると、宇和島の赤松遊園地から見ることもできます。



北濱 一男 写真家

1945 年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめるが、本格的な写真歴は約 20 年。現在は、奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事し毎月奈良へ通う。「撮り歩きなんよ」（ブログ）<http://uwatu.blog135.fc2.com/>

牛鬼

大蔵

遠く、どこからともなく太鼓や笛の華やかな音色が伝わってくる。
秋祭りである。

そこへ突然、竹法螺の異様な咆哮とともに真っ赤な胴体をして
首長で奇怪な頭を振り立てる巨体が現われ、集落を練り歩く。
牛鬼とは、そんな練物である。

(木下博民著／「八つ鹿踊りと牛鬼」より)

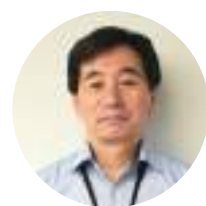
写真／北濱一男 題字／矢間大蔵

協力／愛媛県歴史文化博物館専門学芸員 大本敬久 丸穂牛鬼保存会 宇和島市文化スポーツ課
伊達博物館ほか

参考資料／愛媛県歴史文化博物館 研究紀要 第4号 愛媛まつり紀行(愛媛県歴史文化博物館編) 八つ鹿踊りと牛鬼(木下博民著)

牛鬼とは何ぞや？

—牛鬼の歴史と地域差—



愛媛県歴史文化博物館
専門学芸員
おおもと たかひさ
大本 敬久

二〇二一年丑（ウシ）年。

南予は丑・牛に関する伝統文化が色濃く残る地域だ。

古くから稲作に牛を用い、

娯楽としての闘牛文化（牛

の突きあい習俗）が定着し、

西予市野村町周辺は県下最

大の酪農地帯として知られ

る。牛は人々の身近な存在

であり、神社の祭りでは全

国的に馬を用いるところが

多い中、南予では神輿の先

導役として牛を選択し、牛

鬼（ウシオニ）文化が華開

いた。

しかし、牛鬼については

南予内でも形状、伝承面で

地域差が激しく、それを総

括した刊行物も少ない。「牛

鬼とは何ぞや？」と聞かれ

ても、明快に答えることは

難しい。巷で語られる起源

伝承も意味不明。「加藤清正

の朝鮮出兵の際に敵を威圧

するために始まった」とい

う話も史実ではない。そも

そも加藤清正は南予の歴史

には関係がなく、俗説にす

ぎない。さまざまな解釈と誤解がうずま

く牛鬼文化。丑年を迎えるにあたり、少

し情報を整理してみたい。

牛鬼は神社祭礼の練り物である。「練り

物」といつてもかまばこ、じゃこ天とは

違う。祭りでは神を乗せた神輿が氏子の

区域内を巡るが、その行列に付随したり、

露払いしたりしながら練り歩くもの。つ

まり神のお供役である。

この練り物としての牛鬼は南予全域で

見られるが、全国的には類例を見ない。

東京、大阪の人は牛鬼のことは、ほぼ知

らないし、宇和島藩主伊達家のルーツで

ある東北仙台にも牛鬼は皆無。南予独特

の文化というわけだ。

例外はある。今治市菊間町の祭礼に登

場し、かつては久万高原町でも見られた

（分布図参照）。南予に隣接する高知県梶

原町、四万十市等にも牛鬼は分布する。

江戸時代の宇和島藩・吉田藩領を中心に

周辺地域に広がっており、大洲藩領内でも

宇和島藩に近い地域に濃厚に見られる

など、宇和島藩側から伝播したのは確実

といえる。宇和島藩内で牛鬼が広がった

要因としては、藩主の崇敬が篤く、城下

の総鎮守であった宇和津彦神社の祭りを

各地域が模倣したことで広まったことが

挙げられる。そして現在、牛鬼の継承地

は約一五〇ヶ所にもぼつている。

牛鬼の形は、青竹で牛の胴体のように

編み、布やシロ口で全身を覆い、長い首

の先に張り子（和紙）製の頭をつける。

その形相は牛とも鬼ともつかないもので、

二本の角と額には月輪もしくは日輪の前

立があり、口は大きく開き、舌をむき出

しにして恐ろしい表情を強調する。この

牛鬼を大人数が担ぎ上げ、神輿行列の先

駆けとして、家々に首を突っ込みながら

悪い物を払ってまわる。

牛鬼は一七〇〇年代後半、つまり江戸

時代中期以降に宇和島・吉田藩領内にて

各地の祭りに登場していることが史料上

で確認できる。しかし、それよりも一〇

〇年以上前の安土桃山時代、加藤清正が

朝鮮出兵の際に用いたのが始まりという

説を実証する史料はない。明治時代（も

しくは大正時代）以降に創られた新しい

伝承である。地誌、文化財冊子などで牛

鬼の解説を見ると、昭和四〇年代以前の

本は加藤清正説に触れるものの、「諸説あ

り定かではない」と諸説のうちのひとつ

という扱いであった。しかし、近年の刊行

物やネット情報では清正説が独り歩きし

てしまっている感がある。いま一度、牛

鬼の歴史を確認しておく。

「化物尽絵巻」に描かれた牛鬼（国際日本文化研究センター蔵）



全国的に見ると牛鬼のような祭礼文化は、庶民が蓄財可能となった江戸時代の中期以降に現れる傾向がある。拙稿「牛鬼論」(『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』四号)で紹介したとおり、祭りの「牛鬼」の初見は亀甲家文書。天明四(一七八四)年に田苗眞土村(西予市宇和町)にて牛鬼を製作した費用が記された史料であり、この時期にはすでに宇和島から周辺部の村々に牛鬼が伝播していたと推定できる。これ以上のはわからないが、江戸時代中期に宇和津彦神社の祭りで牛鬼が考案、導入されたと考えるのが妥当だろう。さて、牛とも鬼ともつかない顔の牛鬼。地域によって形相は異なる。一般的には宇和島型が有名で、獅子頭の影響を受けて角形に近く、恐ろしさを強調している。しかし、牛鬼の分布の東限にあたる内子町の牛鬼は牛そのものの表情をしており、鬼の要素は感じられない。内子町のように、歴史的にも地理的にも宇和島から離れた地域に見られる牛に近い表情の牛鬼をどう考えるか。これは、牛鬼が祭りにおいて神輿の先導役を果たすことから、やはり神にお供する動物(聖なる獣)として、馬ではなく南予の人々に身近だった牛を選択したと見るべきだろう。その造形は当然、牛の形状をしていたが、次第に同様に悪い物を払う鬼の要素を取り入れ、加えて獅子頭の影響を受けながら現在の宇和島型のような鬼に近い形相へと変換し、分布の中心域に新たな型が定着し、周縁部に牛に近い古い型が残った

と、みるのができないだろうか。さて、「牛鬼」という言葉の文献上での初見は、今から約千年前。平安時代の清少納言の『枕草子』一四六段である。「名おそろしきもの」として「うしおに」が挙げられ、これを「名よりも見るはおそろし」とするように「見る」対象とされ、イメージは成立していたと思われるが、具体的な事は不明である。浄土思想に加えて地獄極楽のイメージが形成される時期であり、地獄の獄卒である牛頭を指しているとも考えられるが確証はない。江戸時代には、文政一三(一八三〇)年成立の百科事典『嬉遊笑覧』に全国約三〇種類の妖怪の中の一つとして出てくるなど、伝説上の「妖怪」として広く知られていた。江戸時代にさまざま描かれた「妖怪牛鬼」は大きく二つにわけられる。室町時代成立の『太平記』にも記述されるが、全身が黒毛で覆われて、牛のように二本の角、口には牙があり、指が三本あるという牛鬼である。有名な妖怪絵師・鳥山石燕が著した『画図百鬼夜行』等にこの特徴の牛鬼が描かれている。もう一つは、佐脇嵩之『百怪図巻』や『化物尽絵巻』(国際日本文化研究センター蔵)に描かれているような土蜘蛛系牛鬼である。胴体は蜘蛛の形をしており、実際の牛とはかけ離れたイメージである。これら二つの牛鬼のイメージと、南予の祭りの牛鬼とは全く異なっている。現在もそうであるし、江戸時代後期の祭礼を描いた『吉田祭礼絵巻』に見える牛鬼と比べ

てもやはり違う。江戸時代に刊行物で広く普及した「妖怪牛鬼」の知識がそのまま祭りに採り入れられ、練り物として具現化されたと断定することはできず、この点は不明というしかない。

なお、田畑を荒らし、やがて退治される妖怪としての「牛鬼」の口頭伝承は、特に紀伊半島、山陰、四国、九州において数多く確認することができる。南予では宇和島市高光、西予市城川町などにも牛鬼伝説が残る。これらの伝承には共通性も見られ、牛鬼が棲むとされる場所は、洲や滝、海など水に関するところが多く、水辺の妖怪としての性格が強いことが特徴である。また、『太平記』の記述に共通

する牛鬼が女性に化けるという事例が多いが、妖怪としての牛鬼伝説と南予の祭りの牛鬼を直接的に結び付けることはできず、これをどう細解いて、解釈していくのかは今後の課題である。

以上、祭りの牛鬼、妖怪伝説としての牛鬼について、わかつていくこと、わからないことをまとめてみた。牛鬼については、筆者はこれまで『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』四号(一九九九年)、愛媛県歴史文化博物館編『愛媛の祭りと芸能』(二〇一六年)にて紹介しているの

大本 敬久 プロフィール

1971年、八幡浜市生まれ。

専門は民俗学・日本文化論。日本民俗学会、古代文学会会員。著書に『民俗の知恵—愛媛八幡浜民俗誌』(創風社出版、2005年、愛媛出版文化賞奨励賞受賞)他。愛媛県内各地の祭りと芸能、年中行事、昔話伝説等の伝承文化を調査研究するとともに、平成30年7月豪雨で被災した歴史資料の救出保全活動や、地域の文化遺産を活かした復興に取り組む。近年は少子化の進む南予各地で地域に根ざした社会教育、生涯学習の場の創出を模索している。

牛鬼のこと

日輪型の前立て

前立て

牛鬼の頭頂部には「タチウケ」と呼ばれる前立てがあり、大半が月輪型なのに、南宇和郡の牛鬼の前立ては日輪型になっている。



角

写真は宇和島型だが牛鬼の角には様々な形のものがある。(P9 参照)



頭（カブ）のデザインは6種類

牛鬼の頭はカブとも呼ばれ、上浮穴型、喜多郡型、西宇和郡型、宇和島型、南宇和郡型、その他の6種類に分類される。(写真は宇和島型)
(愛媛県歴史文化博物館刊/愛媛まつり紀行より)

頭の材質

牛鬼の頭は昔ながらの張子やグラスファイバーで作られる。写真は張子牛鬼の制作過程。(よしを民芸)



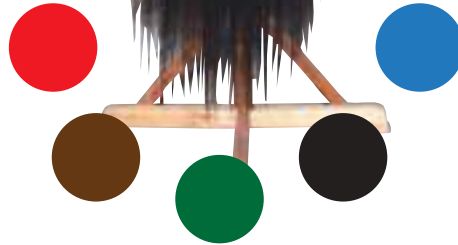
牛鬼のヒゲは馬の毛

飾り物の牛鬼の毛には化繊が使われることもあるが、山車用のものには高価な馬の尻尾の毛が使われる。写真は、束ねた馬の毛を頭に刺しているところ。



牛鬼の顔はカラフル

牛鬼の顔は緑、茶、黒を基調にしたものが多いが、中には赤や青もある。



牛鬼は竹と木でできている。

ドンガラと呼ばれる胴体は淡竹(はちく)や孟宗(もうそう)竹でつくられている。



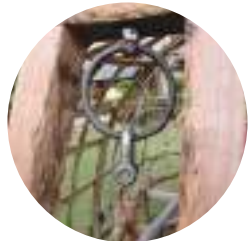
写真は宇和津彦神社の秋祭りで練られる小型の牛鬼。

竹ぼら

かつては、牛鬼の後ろには「竹ぼら」(「カイボラ」、「カイ」など地域によって呼び名が異なる)の「ボーッ」という低い音を唸らせながら歩く子どもたちがいた。



剣をかたどった牛鬼の尻尾



豪快な首の動きを支える金具



首の支柱を通し、胴を覆う布をかぶせる



支柱の先に頭を取り付ける



頭と布を丁寧に固定する



尻尾の支柱はロープで胴体の内部に固定される

カラフルな牛鬼の胴体の色



シュロ 黒 茶 赤系 オレンジ 紫 青 水色 若草色 グリーン 白 金 花柄



松野町吉野

鬼牛 色々



西予市野村町野村



今治市菊間祭り



西予市明浜町狩浜



西予市三瓶町朝立



宇和島市吉田秋祭り



愛南町(旧御荘町)八幡神社



西予市城川町魚成



宇和島市三浦天満神社



内子町(旧小田町)中田渡



大洲市肱川町大谷



愛南町(旧城辺町)岩水

撮影：大本敬久（愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員）



牛鬼ブーヤレ (各) 880 円

立牛鬼 (小) 550 円 (中) 770 円 (大) 1,100 円

■宇和島名産即売所 宇和島市錦町 9-2 TEL.0895-22-2718
<https://uwajimameisan.com/>



うわじま牛鬼©カナヘイ

もーに

宇和島市出身のイラストレーター「カナヘイ」さんがデザイン。愛称の「もーに」は、牛の鳴き声「もー」と鬼「おに」を組み合わせたもの。事業所が申請をすれば、様々なものに利用することも可能 (有料)。

■宇和島商工会議所
 宇和島市丸之内 1-3-24 TEL.0895-22-5555
<http://www.uwajima-cci.or.jp/>

牛鬼ナンバープレート

高速道路延伸にあわせて作成され、現在の登録数は約 3,800 台。今年から、第 2 種の乙と甲のバイクにも対応される。

※詳しくは宇和島市税務課まで



仙貨紙 牛鬼ポチ袋 400 円



仙貨紙 牛鬼コースター 600 円 (2 枚で 1,100 円)

木屋旅館 宇和島市本町追手 2 丁目 8-2

TEL.0895-22-0101 <http://kiyaryokan.com/>



手染め牛鬼タペストリー 10,000 円



牛鬼 T シャツ (黒) 2,300 円 (白) 2,100 円



手染め干支のれん ※色指定、名入れも可能です

12,000 円

黒田旗のぼり店 宇和島市栄町港 2-1-12 TEL. 0895-22-1317



牛鬼ポテト 10個入り 1,080円

■パティスリー・ジュテーム

宇和島市中央町 2-2-6 TEL.0120-65-2012

<http://www.jetaime-cake.net/>

牛神ウシオニ・キング

宇和島市出身 身長 182 cm、体重 105 kg

デビュー戦／2017年2月 所属団体／愛媛プロレス

得意技／ガイヤ・ダイビング、ウワジマバスター

入場曲／ガイヤ・オン・ザ・ロード

(うわじまガイヤカーニバルのテーマソング)

その他／2020 松山まつり 野球拳おどり

【個人部門】優勝

■愛媛プロレス

2016年4月に旗揚げされた四国初のご当地プロレス団体。

<https://ehime-pro.com/>



牛鬼マスク (非売品)

コロナ禍の御旅所行事のために特別に作られたマスク。

■宇和津彦神社 宇和島市野川 新 13
TEL.0895-22-1276



牛鬼打線

名将、上甲正典監督に率いられ、1988年の春選抜大会では初出場で初優勝を飾った宇和島東高等学校野球部の強力打線は、その破壊力から「牛鬼打線」と呼ばれるようになった。再び甲子園でその雄姿を見たいものだ。



兵頭俊朗 (1927 ~ 2006) 宇和島市生まれ。

牛鬼をモチーフにした作品多数。1991 愛媛新聞社賞受賞。

■ギャラリー名画堂

宇和島市保手 2-8-5 TEL.0895-24-4724

休廊日／火・水曜日

<http://www.meigadou.com/>



いよ牛鬼一刀彫

(焼酎) 300ml 1,320円

黒松名門うしおに

(清酒) 1800ml 2,475円

■名門サカイ 宇和島市高串 2-1045

TEL.0895-25-5533 <https://www.meimon.co.jp/>



マンホールの蓋

宇和島市のマンホールの蓋には、牛鬼がデザインされたものがあり、他に闘牛や鯛、真珠をデザインしたものもある。また、「マンホールカード」が、ひそかなブームを呼んでいるが、宇和島市のカードは牛鬼デザインのマンホールになっている。

宇和島市のマンホールカードは、「道の駅みなとオアシスうわじま きさいや広場」内観光情報センターで受け取ることができる。



丸穂牛鬼保存会

—牛鬼を次の世代にどうつなげていくか—



宇和津彦神社秋祭りで神社門前の宇和津町筋を練り歩く丸穂青年団の牛鬼。撮影は、昭和30～40年代前半と推察する。(宇和島市蔵)

団だけでは安全運行ができない等の理由から、「丸穂牛鬼保存会」が発足され、現会長の松田光樹さんで6代目となる。

丸穂の活動の柱は、毎年10月28、29日に開催される宇和津彦神社（一宮様）の秋祭り、後は、うわじま牛鬼まつりでの親牛鬼ハレードと全国各地の祭りやイベントへの遠征が活動の中心になる。過去には、米国本土やオーストラリアをはじめ、ハワイには10回以上訪

れている。牛鬼のように動きのある山車は、国内はもとより世界的にも珍しく、遠征先では驚きと熱狂で出迎えられる。

丸穂だけではなく、今や牛鬼は地域の有志だけでは運行出来ない「人手不足、かき手不足」なのだ。組織化されている丸穂でさえ、常時活動しているのは会長以

下7人の役員だけだ。

「ヤンチャなイメージがあるかもしれないが、皆、誇りをもって真剣にやっています」（藤中学副会長）。

かつて、牛鬼の周りには、ボーッボーッと独特の低い音を出す「竹ぼら」を吹く子どもたちが大勢いたが、今、その姿はない。

「子どもたちが『竹ぼら』を吹かなくなっただことが、かき手不足の要因の一つだと思つので、小学生を対象に地域を学ぶ授業などで『竹ぼら教室』を開催出来たらと思っています。そして、もっと地域の方々から協力して頂けるようにしていきたいと思っています」（松田光樹会長）。



パフィオうわじまの牛鬼前で



顧問 宮川 真輔さん

「郷土芸能である牛鬼の魅力を外にも内にもしっかりと伝えて行きたい」



名誉会長 山下 忠文さん

「牛鬼は生活の一部」



役員 梶邑 則由さん

「楽しいと思える牛鬼を次の世代に繋げて行きたい」



副会長 藤中 学さん

「郷土愛の象徴とも言える牛鬼に携われて、うれしい。牛鬼を広めて残して行きたい」



会長 松田 光樹さん

「牛鬼は、人と人をつなげてくれたもので、この文化を後世へ伝えていきたい」

伝統の張子牛鬼づくり —えひめ伝統工芸士 二代目 宇都宮よしを—



かつて、牛鬼の頭は張子で作られていたが、最近ではグラスファイバー製のモノも少なくない。
「よしを民芸店」の二代目宇都宮よしをこと宇都宮計介さんは、県内唯一の張子牛鬼の製作者で、えひめ伝統工芸士に認定され、昔ながらの製法で張子の牛鬼づくりをしている。

た「型」に、和紙に糊を塗りこみながら幾重にも重ねていく。張りが甘いと成形仕上げの際に紙が大きくながれてしまつて正品にならない。技術と根気のいる作業が要求される。そして乾燥後、表面が滑らかになるまで磨き上げ、下地を塗り、仕上げの塗装をする。
牛鬼の毛は、馬の尻尾の毛を使う。



牛鬼の補修



色付け作業



牛鬼の頭に和紙を張り付けていく



それぞれが制作したダルマを手にするお二人

よしを民芸店の三代目候補として弟子入りしているのは、17歳の女子高生ユウナさん。子どもの頃から絵や工作が好きで、彼女の祖母が宇都宮さんと知り合いだったことから張子に興味をもち、アルバイトではなく「職人」として仕事を覚えたいと「弟子入り」し、4年になる。細かい凹凸部分は、まだまだ修行が必要だが、今では鹿面とダルマの型に和紙を張る作業は師匠がいなくても一人で出来るまでになってきた。そして、今日では「この伝統を受け継ぎたい」と強く思うようになってきたという。

三代目候補は女子高生



鹿面の型に和紙を張るユウナさん

宇都宮さんによると、張子の仕事は「糊沸かし三年裂き一年の張り八年」と言い、一人前になるには10年〜15年かかるとのことだが、一度やり始めたら最後まで黙々とやり通す彼女の姿勢に「今どきの子にしては珍しい有望株です。自分の持っている技や経験をユウナに渡せたら言う事ないと思います」と目を細める。

《よしを民芸店》 宇和島市中央町 1-3-3 TEL.0895-24-6812

「ミニ牛鬼頭作り教室」

大村 仁志



写真右：最終日完成した牛鬼を手に集合写真 写真左上：制作風景 写真左下：完成した黒と白の牛鬼

大村さんは長年、中学校の技術家庭科の教材を販売する仕事をされていて、約15年前知り合いの先生から、「宇和島らしい教材を開発してほしい」との依頼を受け開発したのが「ミニ牛鬼頭作りキット」だ。

その後、南予の多くの中学校や公民館等でこのキットを使った授業や教室が行われてきたが現在、「パフィオうわじま」で行われている。

教室は1クール12回開催され、大村さんによると「色付けが一番苦労されますが、完成までしっかり指導しますので、興味のある方は是非参加してみてください」との事だ。

「ミニ牛鬼頭作り教室」

参加費 10,000 円

お問合せ先

パフィオうわじま

TEL.0895-49-5922

「趣味の牛鬼頭作り」

山下 宗一



写真右：山車用と飾り用の牛鬼の頭。写真左上：飾り用（小）の牛鬼。写真左下：精巧に作られた各パーツ。とても趣味で作ったとは思えない。

とにかく祭りが好きで、約30年ほど前、丸穂牛鬼保存会に入った。そこで、塗装の経験もあり器用だったことから、牛鬼の頭の修理を頼まれたりしているうちに自作の牛鬼の頭を作るようになったという。

山下さんが作る牛鬼はグラスファイバー製で髭に使われる馬の毛も刷毛メーカーから取寄せる。こだわりは、自動車にも使われるウレタン塗装を施す点だ。牛鬼づくりは、あくまでも趣味と言うが、それにしても完成度の高さに驚かされる。

依頼を受けても完成には1年近くかかってしまうこともあるが、完成後、人から褒めてもらうのが、何よりのご褒美と笑う。

**牛鬼の修理
承ります。**
お気軽に
ご連絡下さい。

三晃商会

宇和島市栄町港 2-2-7
TEL.0895-24-1451

特集2

宇和島のダ・ヴィンチと呼ばれた鬼才「牛鬼」作家河野一水

こうの いっすい

河野さんの一刀彫りは現代アート

最も宇和島らしい芸術家、「牛鬼」一刀彫りの河野一水さんが、こよなく愛した宇和島から天上へ旅立って今年17回忌を迎えた。

かつては、駅構内や郷土料理店、一部の商店などに展示・装飾されていた「牛鬼」は、基本的に民芸品とは一線を画した現代アートであり、予約を受けてから制作する、一貫した完全オーダーメイド・システムで、高額品ということもあつ

て、ほとんどの河野作品は市外へ流出している。一時代を画した高畠華宵の美人画をはじめ、地元出身の芸術家の作品が残らないところは、いかにも宇和島らしい。

作品は椽木や桜木の選定から、胴体を覆う棕櫚の部分を含め、木彫り作業は一貫して本人によるもので、与えられた面積を線と面で区切るというモンドリアンの絵画論を応用した芸術作品。

「安くて大きくて、見場（外見）がいい、の三拍子揃わないと宇和島の人は買わない」が河野さんの口癖だった。一時期スタッフ何人かで分担でやっていた時代もあったが、完璧主義者で後継者や弟子はなく、一代で終わったのは残念。亡くなる2年ほど前から体調不良で制作はままならなかった。



河野一水 牛鬼一刀彫りの代表作
(田部氏蔵／タナベ昭和館にて展示中)

昭和 25 (1950) 年生まれ
宇和島市出身
日本眼鏡技術者協会会員
シネマニア宇和島
タナベ昭和館主宰
趣味：ひとり旅



たなべ つかさ

文・写真提供／田部 司

永遠の「青春」を生きた芸術家



河野一水 67歳 昭和58(1983)年頃

もともと私の家業である眼鏡店の祖父の代からの顧客だった一水さんと、個人的に親しくなったのは、昭和67(1989)年私が「宇和島バードマップ(野鳥地図)」なるものを制作した際、地図の正確さについてお叱りを受けたのがきっかけ。その後は、ご自分で設計された天神町のユニークなアトリエ兼住宅で、深夜から時には夜明けにいたるまで、缶ビースの強い煙草の煙が立ち込めるなかコーヒーと洋菓子をご馳走になりながら、宇和島の歴史や文化、宇宙科学など、まさに博覧強記で広い様々

なお話を伺った。

今にして思うのは、一水さんは誰よりも深く、宇和島の町と宇和島の人たちを愛していたこと。そして、まやかしの権威や権力に対しては、一貫して抵抗の姿勢を通して、永遠の青春を生きた。「芸術」とは、ひたすら「心楽しい形式をつくる試み」(H・リード)であり、そのためには現実を見つめ不要な価値や既成概念の否定・破壊がともなう。それゆえ、地位や名誉、金といった世俗から一切離れて、より「知的自由」に生きようとする人たちが、作品づくりだけで

生活できる人たちが真の「芸術家」といえる。宇和島の偉人たちの中で「先生」ではなく、「一水さん」と「さん」付けで呼べるのは、実に私にとっては一水さん以外にいなかった。反権力をかかげる芸術家が、有難く賞をいただくといった笑止なことには終生無縁の人だった。

特異な眼を克服して新分野へ

若い頃に私は「目とメガネの心理学」なる小冊子を、遊び心で作ったことがあった。近視や遠視、乱視、斜位(潜伏性斜視)などあらゆる屈折異常の要素が加わり、それも強度になるほど人間の性格は複雑で難しくなる。反対に芸術家や学者など難しそうな人でも、目が簡単な人なら本質的な性格はさほど難しくない。という深層心理学を応用した私なりの考え方だまとめたものだったが、一水さんには、それがピタリ当てはまった。他の人にどうかはまた別であるが。



河野一水作 自画像(制作年不詳)

一水さんは、強度近視と強度上下斜位(斜視)という特異な眼の持ち主であり、もうひとついうと、眼鏡製作の際、視力検査は私の父しか信用せず、さらに四角い玉型のフレームを逆三角形にするといった大変な注文で、いわばオンリーワンのメガネだった。矯正視力(メガネをかけた視力)も悪かったが、日照、日没時間や方角、方位など数学的なデータを駆使し計算してピタッと構図の決まった写真を完成させたのには衝撃をうけた。

80歳を超えてからライフワークとして挑戦していた「インテリア写真」という新分野があった。宇和島のなかにある美を発見しようとする一連の「四季の随想 宇和島」シリーズである。水彩・油彩画を部屋に飾る時代は終わり、壁面にインテリアのように使われる写真こそ新しい時代のアート。という発想であり、作品を数多く発表されブームを巻き起こした。

“ダ・ヴィンチ”と いわれた由来

本業は木彫作家だったが、「宇和島のダ・ヴィンチ」と呼称されたように、写真以外にも三味線、ピアノの指導やアルトサックスのジャズ演奏、舞台構成・演出などあらゆる芸術ジャンルに取り組み、いずれもサイドビジネスになっていたのは称賛に値する。

人の本質を一瞬にして見抜くパワーを持った独特の風貌と眼光の鋭さで、「オマエハナニモノダ」と絶えず問いかけられるようだった、と語ったのは写真家・陶芸家の入義紋四郎氏。

河野一水を知る人は今では少なくなったが、宇和島の作家の中では、たぐいまれな科学や数学すべてに強い本物の芸術家の姿が、今も私の目に焼きついている。友人の一人として、その功績を語り継ぎたいと思う。

※1) レオナルド・ダ・ヴィンチ 1452～1519 「モナ・リザ」で知られるイタリアのルネッサンス期を代表する芸術家。音楽、数学、解剖学、天文学、土木工学など様々な分野に多才多能を発揮し、顕著な業績を残した。

※2) いりよし もんしろう 1947～2020 宇和島市伊吹町出身。東京を拠点に写真家として活動後、昭和 62(1987)年に陶芸家に転身。平成 14 (2002) 年から瑞浪市に工房と穴窯を築き移住。今年 (2020 年) 7 月 11 日逝去。



青春



新緑



夕焼け小焼け



冬の船泊り

河野一水作「四季の随想 宇和島」より



サックスを吹く河野一水
撮影：大内徳三氏

河野一水プロフィール

本名：河野辰男 大正 5 (1916) 年～平成 16 (2004) 年 南宇和郡御荘平城生まれ。幼少期に宇和島市に移り、和霊町で育った。昭和 8 (1933) 年 宇和島運輸株式会社に入社した後、石崎百貨店、宇和島自動車を経て、同 24 (1944) 年から木彫作家として活躍。宇和島市内で見られる「牛鬼」をモチーフにした絵画、民芸品、モニュメントなどの多くが、なんらかの影響を河野さんから受けている。各書店の郷土図書コーナーに今も置かれている※2)「愛媛県の歴史」に一水・作の牛鬼一刀彫りとして表紙力バーを飾っているほか、貴重な外国人旅行者のための初の日本全国の紹介本※3)「ジャパハンドブック」で、宇和島地域で唯一、著者ジョー・ビシニャーニから直接取材を受け、Kono-san の Usioni として紹介されている。また、河野さん自身の歴史に関する著書として※4)「ふるさとの思い出写真集 宇和島」は、郷土のぼう大な資料から整理、編集した労作であり、宇和島の大きな遺産となった。

平成 16 (2004) 年 2 月 19 日逝去。享年 89 歳。同年 8 月遺作展開催 (袋町ふれあいサロン)。

※2)「愛媛県の歴史」2010 年 第 2 版 山川出版社 ※3)「ジャパハンドブック」1983 年 1 月 ブックワイズ (オーストラリア) 発行 ※4)「ふるさとの思い出写真集 宇和島」(松本麟一と共著) 1983 年 7 月 国書刊行会発行

3

予土線特集やりよります。



「かっぱようよ号」も目を丸くする予土線の雪景色（二名～大内間）。

撮影 / 坪内政美



山下 文子 やました あやこ
宇和島市出身、鬼北町育ち。
予土線沿線は、県をまたぐも「ザ・
生活圈」。鉄道を始め、乗り物は何
でも大好き。座右の銘は「その角
を曲がれば、旅」
（※永六輔氏のうけうり）。
「四万十の鉄道 予土線」のホーム
ページでコラムを担当。

協力：高知県予土線利用促進対策協議会



<http://yodosen-green.com/>



<https://twitter.com/yodosen>



<https://www.facebook.com/yodosen/>



坪内 政美 つぼうち まさみ
スーツ姿で撮影するという奇妙なこ
だわりをもつ鉄道カメラマン・ロケ
コーディネータ。各種鉄道雑誌など
を執筆する傍ら、テレビ・ラジオに
も多数出演。町おこし列車「どつぽ
列車」を主宰し、駅スタンプを製作
・寄贈する活動を行っている。高知
県予土線利用促進対策協議会アドバ
イザー。

ブログ：「坪内政美公式ブログII」

【主な活動・執筆など】

鉄道全路線シリーズ（朝日新聞出版）旅と鉄道・鉄道キング（山と溪谷
社）サライ・ビーバル・本の窓（小学館）琴電殺人事件（西村京太郎・
新潮社）JTB時刻表・ノジュール・青春18きっぷの旅・観光列車でい
こう・るるぶシリーズ 主に四国関連・瀬戸内海離島 UTB パブリッシング
四国旅マガジン GajA(SPC 出版) ネコ駅長ばす PHOTO BOOK（エイ
出版）鉄道珍百景（天夢人）ほか、ラジオまどんな「どつぽの鉄道見聞
録」（NHK松山放送局・17:05～月一度程度出演）多数。

宇和島から窪川
予土線

鉄女 やましたあやこの
嗚呼、予土線らぶそでいー

<http://yodosen-green.com/> ※その他のエピソードもHP掲載中

「ドラマ多き予土線通学の日々」



かれこれ20
年ほど前の、
私と予土線の
おはなし。

当時、うら若き女子高生だった私は、毎朝、予土線に乗って鬼北町から（当時は広見町）宇和島市内の県立高校に通っていた。1時間目に間に合う列車は、午前7時24分に近永駅を発する普通列車のみ。普段は1両編成でトコトコ走るワンマン列車が、この時間は車掌付きの3両編成。西土佐、松野、広見、三間と、沿線から学生が次々に乗り込んで満員になるほどの、まさに通学ラッシュアワーだった。

これに乗り遅れると、1時間目の授業は完全にアウト。なんとしても、この列車に乗りなければならなかったのだが、
寝ぼすけだった私は、余裕を持って駅で列車を待ったことなど一度もない。自宅から駅までの時間を逆算してギリギリまで布団の中にいた。1分1秒でも長く布団に潜り込んで、朝ご飯も、そこそこに自転車をかつ飛ばし、列車がホームに入るのと、ほぼ同時に近永駅に到着。ホームで同級生たちと「おはよう」などと、さわやかな朝のあいさつをかわすことなく、ぼさぼさの頭で息を切らしながらドタバタと列車に乗り込んでいた。

ところが、完全に間に合わず、列車が走り出してしまうことも一度や二度ではなかった。カンカンカンと鳴り響く踏切



の音。自転車に乗ったまま前方を見ると、ゆっくりと駅を出て行く列車。運転士さんと目が合う。私は、腕がちぎれそうなほど勢いよく、思いっきり手を伸ばして、激しく意思表示。大きな声を張り上げて「乗ります〜!!」と叫ぶ。その瞬間、キキーンというブレーキ音かして、列車は止まったのだ。「こりゃあ! 列車止めたら罰金ぞ〜」と車掌さんが窓から身を乗り出す。私は、線路脇のフェンスに自転車をくくりつけ、踏切を横切る。すると、怒鳴り声を上げていた車掌さんが一転、優しい表情で乗務員室のドアを開けてくれた。「すみません、すみません、ありがとうございます」と腰をかがめながら、こそこそと車内へ乗り込んだ。

他の学生たちから、じろじろと冷たい視線を向けられても、乗ってしまえば、こっちのもんだ。3両編成のおかげで一番前の車両は近永駅では満員になるほど

ではなかった。さっそく二度寝をしてやろうと、席を探していると、しつかり者の同級生が私に手招きするではないか。「もう、ちゃんと駅から乗らんといいけんやろ」と小言を言いながらも、ちゃんと私が乗ってやることを想定して、学生鞆を置いて席を確保してくれていたのだ。ああ、なんて気の利く同級生なんだ。

宇和島駅に近づくにつれ、どんどんと学生で満員になっていく車内で、私は安堵感に包まれ、まるで何事もなかったかのように、そのまま終点の宇和島駅まで夢の中であつた。

よくよく考えると、定時発車の列車をまるでタクシーのように手を上げて止めるなど、現代においては、きつと御法度である。いや、当時から罰金払えと車掌さんが言うくらいだから、本当は大ごとなのだ。私が、きちんと1時間目から授業を受けられたのも、この心優しい人情味のおふれる運転士さんと車掌さん、それに同級生のおかげだったと、振り返ってしみじみ思う。

登校時間の予土線は、なんとも、あわただしかった思い出ばかりだが、下校時間は、きわめて穏やかだった。私は、部活動をしていたので、帰りの列車は午後7時の宇和島発普通列車。この時間も3両編成で、暗くなった駅にディーゼルエンジンの音が響いて、車内の明かりが、ぼんやり灯っている。私は、この夜汽車の雰囲気が好きで、昼間とは違って夜の予土線は、どこか、見知らぬところへ連れて行ってくれるんじゃないかと思ってしまうほど、ちよつと現実離れた列車



近永駅のホームで列車を待つ学生たち（撮影／坪内政美）

に見えた。出発時間より早く駅に着いて、キオスクでアイスやジュースを買い込んで乗り込むほどの余裕っぷり。まるで朝とは大違い。さらに、ゆつたりとボックスシートに腰掛けて、仲良しの友達とテストの結果や気になる音楽の話なんかしたりして。35分間の乗車時間じゃ足りないときには、近永駅から自転車を走らせて、太鼓饅頭を買って、また、おしゃべりをして、結局、家に帰ってくるのは午後9時ごろだった。なんと、ゆつたりとした下校時間だったことが。

予土線通学のエピソードは、まだまだ書ききれないほどあるけれど、きつと、今も予土線は高校生たちにとって、青春ドラマの舞台であるにちがいない。私のように破天荒な朝もセンチメンタルな夜も、予土線なくては語れないのだ。



真土 西ヶ方 江川崎 半家 十川 土佐昭和 土佐大正 打井川 家地川 若井 窪川

予土線三駅語り

3

深田駅と近永駅と出目駅



文：山下 文子



写真：坪内 政美

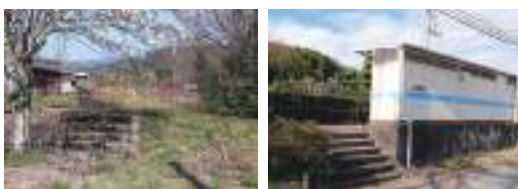
ふか た 深田駅 ダイナミックな鉄道写真を狙う駅

駅データー

■所在地 北宇和郡鬼北町内深田 ■開業日 1914(大正3)年10月18日 ■旅客ホーム数 1面1線・無人駅

周辺には川や田んぼがあり、きわめてのどかな無人駅で、旧駅舎跡やホームの遺構が色濃く残る。もともと水量の多い泥の深い田んぼが広がっていたことが地名の由来となっている。

お手軽かつダイナミックな鉄道写真が撮影できるスポットとしてもオススメで、駅から窪川方面へ400メートルほど行った場所には、田んぼの中にまっすぐな線路が広がっており、だだっ広い田園風景の中を走る列車が間近で撮影できる。夏の青田もいいが、踏切付近のトウモロコシ畑も鉄道写真を演出してくれる。踏切待ちをしながら撮影したくなるほど。雪が降ると一面銀世界に覆われた鉄道写真も狙える。また、夜の真っ暗闇を駆け抜ける列車の明かりはとても幻想的だ。(余談だが、この駅付近の田んぼにはオタマジャクシの季節ともなれば2億年前から姿を変えていない古代生物カブトエビが見られる。百円玉ほどの大きさのカブトエビは農業に弱く、きれいな水田にだけ出没するため、この辺りの自然の豊かさを象徴しているようだ)



写真上／夏の日に駆け抜けるトロッコ列車も疾走感たっぷり
写真下左／駅構内に残る旧駅舎・ホーム跡はなんだかノスタルジーを感じる 写真下右／現在の深田駅

田わわ家 鬼北町内深田 1233 TEL.0895-49-1545

営業時間／8:00～15:00 定休日／日曜日

平成29年11月に深田駅真横にオープンして以来、地元の食材にこだわり、安心安全で美味しいメニューが並ぶ。地域のお年寄りが「今日のお弁当は何?」と立ち寄ったり、小学生たちが学校帰りに「おもち一個ちょうだい」などと寄り道したり、地域住民の台所として定着している。日替わり弁当(500円)は予土線の旅のお供にもおすすめ。



鬼北町庁舎 《見学可》

問合せ：鬼北町役場 TEL.0895-45-1111

平成24年に国の登録有形文化財となった鬼北町役場。1958(昭和33)年に竣工された鉄筋コンクリート造り3階建てで、当時、モダンズム建築の先駆だったレーモンド建築設計事務所の社長が鬼北町出身だったという縁で設計された。その後、耐震対応を施し現在も当時のままの姿を残している。

H.P(双曲放物線)シェルと呼ばれる構造は当時、最先端の建築技術で議場の屋根に採用されており、色鮮やかな丸いスタンドグラスとともに独特の空間を生み出している。

平成27年に誕生した別館は、鬼北町産のヒノキを使い、中央に樹齢250年のカエデの柱を配置。ここでも「レーモンドトラス」と呼ばれる丸太を三角形に組み合わせて強度を高める技法が見られる。

ホームページ：

<https://www.town.kihoku.ehime.jp>



写真上／鬼北町役場外観 写真下右／議場 写真下左／モダンなソファ
写真丸／登録有形文化財のレリーフ (撮影／山下文子)



宇和島 北宇和島 務田 伊予宮野下 二名 大内 深田 近永 出目 松丸 吉野生

いずめ 出目駅 季節感を楽しめる駅

駅データ

■所在地 北宇和郡鬼北町出目 ■開業日 1923(大正12)年12月12日 ■旅客ホーム数 1面1線・無人駅

駅舎の周りには桜の若木や銀杏の木があり季節ごとに無人駅を彩っている。宇和島鉄道の延伸により誕生した駅で、国道から広々としたホームが見える。
窪川方面に向かって、並走する国道は峠になっていて、そこから駅を眺めると田んぼの中をゆっくり進む列車を俯瞰できる。撮影にもオススメ。また、駅から歩いて行ける道の駅「森の三角ぼうし」では、鬼北町の旬の野菜や新鮮な卵、特産のキジ肉などぜひお買い物を楽しんでほしい。パッケージにこだわった「鬼米」や鬼の角ならぬ鹿の角、さらには鬼北町の方言をデザインしたユニークなトートバックも販売しているので、鬼北町の観光みやげに迷ったらぜひ立ち寄ってほしい。高額当選をバンバン出している幸運の宝くじ売り場もある。



峠からの俯瞰は早朝6時台がオススメ。冷え込むと霧がかかって幻想的

道の駅 広見森の三角ぼうし 鬼北町永野市 138-6

TEL.0895-45-3751 営業時間／8:00～18:00 定休日／月曜日

駅から徒歩圏内にあり、鬼北町の特産品がてんこ盛り。地元企業である高田商店の醤油やポン酢、地蔵味噌や特産のキジ肉も販売している。平成27年2月に誕生した高さ5メートルの赤鬼「鬼王丸」のモニュメントは、フィギュア会社海洋堂が手がけ、造形作家・竹谷隆之さんがデザインした。肩にはキジ、台座は「轟の甌穴群」。道の駅ではオリジナルグッズも制作し、鬼推しのホットスポット。



鬼王丸は3つの願いをかなえる力があるとも言われる。この眼力たるや！

ちかなが 近永駅 通学ラッシュになる主要駅

駅データ

■所在地 北宇和郡鬼北町近永 ■開業日 1914(大正3)年10月18日 ■旅客ホーム数 1面2線・有人駅

1914(大正3)年に予土線の前身となる軽便鉄道「宇和島鉄道」として敷かれた線路が基になった駅。県立高校が最寄りにあり、朝夕は通学ラッシュとなることも。駅舎は、まもなく鬼北町に譲渡されることから駅周辺の再開発が予定されている。現在、駅舎ではキップの委託販売が行われていて、予土線だけでなく全国の路線を対象にしたちよつとレアな手書きの乗車券を手書きの鉄道ファンにとっては、昔懐かしいこの特別な乗車券を手にも列車に乗るのがまた楽しみの一つのようなうだ。



美しい鬼北熟成キジを描いた駅スタンプ。押せるのは窓口が開いている午前7時から午後5時まで



写真右／朝夕のホームには、通学する学生でにぎわう
写真左上／役場近くの鉄橋をゆく列車を、奈良川からローアングルで撮影できる



宇和島被服株式会社 代表取締役 山本 篤

地域に寄り添う制服専門店

うわしん若手経営塾 OB

若旦那将
おかみ

2



弊社は、大正11年に曾祖父が個人創業し、昭和19年8月に株式会社を設立しました。創業時から地域に寄り添い、衣食住の一つである「衣」の「安心と安全」を心掛けてまいりました。現在は、外商では企業の作業服・事務服・白衣・靴等の販売を、店舗では「キャンパスショップ宇和島フレンドリー」として主に学生服の販売を行っております。

住の一つである「衣」の「安心と安全」を心掛けてまいりました。

なることができる」ということです。また、着用すると気持ちを切り替えるスイッチが入り、個人や組織の士気を高めることができます。企業のイメージを統一して表現することもできます。

制服の一つである作業服は、近年ワークマンプラスの流行によりイメージが一新され、おしゃれなものが出てきたり、コスパが良いことが知られました。また、空調服という小型ファンが内蔵された作業服が熱中症対策に欠かせないものとなっており、全国で年間100万着を超える売れ行きを見せています。弊社も様々な商品を取り揃えておりますので、お気軽にお声がけください。

1月後半に入ると、新1年生の学生服準備のため、お客様が来店し始めます。宇和島被服株式会社よりも「フレンドリー」の方が、皆様にはなじみがあるかもしれません。初めて学生服を買うときは、値段がお父さんのスーツより高い?! というのもあって「どれを買えばいいのだろう」と不安がいっぱいだと思います。学生服専門店「フレンドリー」では専門スタッフが丁寧にご案内いたしますので、安心してご来店いただければと思います。

今年は新型コロナウイルスの影響



CAMPUS SHOP 宇和島 フレンドリー店頭

で社会全体が様変わりいたしました。弊社でもマスクの着用、手洗い、換気を徹底しています。また、出入口に消毒液を設置し、お客様にも手指の消毒をお願いしておりますので、なにとぞご協力をお願いいたします。

最後に、この南予地域になくはないお店・会社の一つとなれるようより一層の精進をし、街とともに育っていききたいと思っております。

宇和島被服株式会社



■CAMPUS SHOP 宇和島 フレンドリー

宇和島市中央町2丁目4-20 TEL.0895-22-0114

宇和島被服



<https://uwajimahifuku.com/>



うわしん「南予活性化若手経営塾」とは、宇和島信用金庫において1年間、南予地域の産業活性化をはかるために創業者や2代目、3代目の若手経営者を育成し、企業経営体質の健全化・成長のためのセミナー・個別指導・異業種交流等をおこなっていて、地域内の中小企業の経営レベルを向上させる目的で開講されています。



宇和島城天守閣【明治時代】

現在、私は中央町の袋町商店街の店舗兼住宅の最上階に住んでいる。朝、目覚めて窓を開けると、宇和島の城山が目に見え込んでくる。残念ながら天守閣は建物に隠れて見えないが、見渡す限り城山の緑があざやかに開ける。市内のどの場所からでも望める宇和島城は、市民の心のシンボルである。雨上がりの日や木漏れ日のなか苔むした旧道の石畳の階段を登れば、格別しつとりした深い味わいにつつまれる。

「お城山」での子どもの頃の思い出は、水晶や化石の採れる場所があつて友達みんなと競い合つて採ったり、鬼ごっこ（かくれんぼ）をしていて洞穴に身を潜めていたり、あとで聞くとそれが戦争中の防空壕跡だったという。また、上り立ち門をくぐった所に住んでいた番ちゃん（城山の番人）に追いかけて来て恐い思いをしたり：我々いわゆる団塊の世代は、みんなそんな思い出を少なからず持っているのでは…。

昭和41（1966）年から10年間東京

にいた私にとって、東海道線の深夜を走る寝台列車、宇高連絡船を経て高松から予讃線乗り継ぎ、終着の宇和島までは1日近くを要した。それでも、宇和海が見え吉田湾の知永峠を越える辺りになると帰郷の期待感がふくらみ、やがて城山の天守閣が徐々に視界に入ってくる。宇和島から列車で離れた時、後方で最後まで見送ってくれたのは城山だった。その場を立ち去り難い、後ろ髪を引かれるような思いにいつも駆られた。同じような思いは、3度訪れたパリを去る際にも抱いた。シャルル・ド・ゴール空港に向かう車中から、しだいに後方へ遠ざかる、北東のモンマルトルの丘に立つサクレ・クール寺院に惜別の情がきまつて湧いてくるのだった。

宇和島城を築いた藤堂高虎が流れを付け替えたという辰野川と神田川に囲まれ、何百年も町が守られてきた。宇和島の町もやわらかい陽光の宇和海も母の胸に抱かれるような、あるいは胎内に宿った時のような安堵感を得られる。パリもまた、町の中央を流れるセーヌ川の中州シテ島を中心に発達してきた。パリと宇和島の町が共通して見えるのは、あたたかな女性的イメージを感じさせる古都、歴史の町だからかもしれない。

昨今、城と脇川を中心に、歴史上人物の居住跡整備や『おはなはん』『寅次郎と殿様』などテレビ・映画の影響を観光に取り入れている大洲市や、西予市や内子町ほか南予の町が歴史的町並

みを生かした町づくり、ある程度成功しているのに比べると、宇和島は城山と天赦園ぐらいいし昔の様子を伝えるものが残っておらず、それも以前に比べると樹木は大幅に伐採されたために、昔の遺風とはかなり異なっている。

戦前の宇和島は、官庁、警察署、銀行から、船会社、商店、映画館まで多くは擬洋風建築であり、いわば神戸の北野異人館街を思わせるような、実にオシャレな町並みだったのだ。町の大半を米軍の空襲で失ったことが景観を一変させた大きな要因だが、戦後になつてわずかに遺つた劇場や花街、料亭など町の歴史を伝える文化遺産はあつたという間に取り壊され、また、橋畔のミニ公園や旅館改装など、市民感覚からしたらチョッと頭を傾けるようなおかしい形に変えられている。

ここ10年、市や県など行政主導のさまざまな催しがあり、最近では「伊達」をキーワードにしたイベントが目についたが、それらが宇和島の活性化に本当につながったのだろうか。宇和島は、伊達文化ばかりでなく、多様な歴史や文化、芸能が息づく町である。たとえば、劇場や映画、花街などの土壌や戦災都市としての名残り、一方で俳句や和歌、詩など文学の奥深い重層性のある芸術や文化を育んだ土地であつた。現在、伊達博物館移築と周辺公園計画が浮上しているが、元々伊達博物館のあつた場所は、部分的に残つた旧藩邸の白壁に囲まれた名勝・偕楽園があり、子どもの頃近所に住んでいた私は、亀や錦鯉の泳ぐ池水式の庭でよく遊んだのを覚えている。

だのを覚えている。市政担当者に望むのは、将来を生きる子どもたちのために後世に美しい宇和島を残してほしい、というのが一市民として私の願いである。そうした歴史的由緒のある場所を現代風にアレンジするのではなく、パリのように、できるだけ自然を生かした町並み保存を心がけてほしい。我々が城山や天赦園、偕楽園で遊び育つたところと同じく、真に市民に愛され、子どもたちにとって、永遠に思い出の1ページを飾る「故郷」にしなければならぬ。



【現在の様子】

私の好きなパリは、モディリアニがアトリエにした「洗濯船」やユトリロの描いた「コタン小路」、アポリネールとローランサンの恋の舞台「ラパン・アジル」(シャンソン酒場)が現存するモンマルトルと、芸術家たちが多く居住したモンパルナスである。私の好きな宇和島は、やはり城山の周りに集めて、中庭に野生のタヌキが姿を見せていた超一流旅館の蔦屋、ハトポッポの丸之内和霊神社、瓦屋根と松の木の配色のみごとな丸重旅館、丸木舟が吊られていた南予護国神社などが、すべて少年の日のほのかな夢のなか…。

※1) フランスの首都パリで一番高い丘（標高130m）。サクレ・クール寺院はパリのランドマーク的存在。

※2) 神戸市にある地区名で、伝統的建造物群保存地区の総称。明治大正期に建てられた洋風建築物（異人館）が多く残存している。

田部 司 たなべつかさ

プロフィール 昭和25（1950）年生まれ 宇和島市在住 日本眼鏡技術者協会会員
シネマニア宇和島・タナベ昭和館主宰

写真・文 / 田部 司



高山の潮垢離たかやまのしおごり

— 篝火に照らされ、身を清める —
(西予市明浜町)



撮影／北濱一男

大本敬久

愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員



おおもと たかひさ

1971年、八幡浜市生まれ
専門は民俗学・日本文化論

著書に『民俗の知恵』（創風社出版）等

高山地区は西予市明浜地域の中心部に位置する。集落は海岸沿いの平地に密集し、柑橘の畑が周囲の山を彩る。半農半漁の集落ではあるが、かつて石灰の積み出し港として知られていた。明治時代から昭和初期まで国内はもとより朝鮮半島にまで出荷しており、人モノ、情報の交流が盛んな産業都市でもあった。明治三〇（一八九七）年の高山村の人口は四〇四九人（平成二七年は七三七人）。当時は卯之町の倍の人口を誇るほどであった。

高山の賀茂神社では江戸時代より秋祭り（かつては一〇月二四日、現在は第四土曜日）が盛んに行われ、牛鬼、五ツ鹿踊り、相撲甚句など南予の多くの集落でも見られる「練り」が継承されている。これに加え、宇和島城下や吉田といった経済的に恵まれ、文化的気運も高い地域に見られた「練車」が現在でも登場する。太閤秀吉の人形を乗せた高欄付きの豪華な屋台であり、これを曳いて集落内を練り歩いている。この祭りの前夜（第四金曜日の夜）には、三基の神輿の昇き夫と警護たち約三〇人の若者により、「潮垢離」と呼ばれる身を清める行事が行われる。海岸に割木を高く積み上げて明々と篝火を

焚き、禪姿で掛け声をあげながら何度も海に飛び込み、最後には海中に浸っていた牛鬼の胴体を引き上げて担いでまわるといふ勇壮な宵宮祭である。

祭りの始まりとして参加者がケガレを祓い、身を清める意味合いもあるが、牛鬼の胴体を海に浸けるのは海水で竹や縄が締め、胴体が丈夫になるという利点もある。もともとは牛鬼の胴体締めのために行われていたのが、次第に若者が海に飛び込むようになり、賑やかな行事へと発展したのではないだろうか。いずれにせよ潮垢離は、近隣では他に類例を見ない行事であり、西予市無形民俗文化財にも指定されている。

新型コロナウイルス感染症の感染経路とその予防



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

2019年に中国で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、またたく間に全世界に拡大し、未だ終息の兆しは見えていません。この感染症の感染経路は、飛沫感染、空気感染、接触感染です。

飛沫感染

感染者がくしゃみや咳をすると、病原体を含んだ微粒子が飛びます。水分を含み比較的大きな微粒子が飛沫で、これを吸い込むことで感染します。飛沫は重いので長く浮遊することなく、飛距離も1〜2m程度です。霧吹きのようなイメージすると良いでしょう。新型コロナウイルス感染症の最も大きな感染経路です。飛沫を飛ばさないことが一番の予防であり、マスクや咳エチケットが効果的です。

空気感染

比較的小さな飛沫から水分が蒸発した軽くて細かい粒子を飛沫核といいます。飛沫核は長時間空中に浮遊し、遠くまで到達します。タバコの煙のイメージです。感染力は飛沫感染より弱く、米国疾病対策センター（CDC）によると、「新型コロナウイルスが空気感染するのは特定の条件下であり、

例えば換気の悪い閉鎖空間で、運動や歌唱により感染性のある人の呼吸が荒くなる場合などに起こる。」としています。有効な対策は、換気です。

接触感染

ウイルスが付着した物を触ると手にも付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染します。そのため、手洗いが一番重要な感染対策となります。接触感染による感染力は弱いいためそれほど神経質になる必要はありませんが、帰宅後や調理・食事の前、トイレの後などには手洗いを行いましょう。またウイルスの粘膜からの侵入を防ぐため、むやみに顔を触らないようにしましょう。環境高頻度手指接触面（ドアノブ、電気のスイッチなど）は、1日1回は清拭消毒をしましょう。床や壁など広範囲な部分に消毒剤を用いる必要はありません。なお、食料品からの感染の報告はありません。

「三密（密閉、密集、密接）」の回避も大切です。国立感染症研究所から、いわゆる「飲み会」における感染例の報告があります。それによりすると、「飲酒そのものが感染リスクを上げるわけではないが、飲み会には参加者が多く、時間が長くなりやすいため

接触機会が増加する」として、次の提言をしています。

【客】

体調不良者は参加しない。感染源にならないよう日頃から三密を避ける。回し飲みをしない。別グループへの接触を避ける。

【従業員】

密集しない店内レイアウト、座席配置を工夫する。席移動の制限を設ける。

新型コロナウイルス感染者の退院及び療養解除基準は、次の通りです。

- ◎有症状者は発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合。
- ◎無症状病原体保有者の場合は陽性が確認された検体採取日から10日間経過した場合。

この基準を満たして回復した方には感染力はありません。残念なことに感染者に対する風評被害や人権侵害の報告が愛媛県内でも見られます。誰もが感染者になりうる状況です。お互いに相手のことを思いやる気持ち忘れずに、不確かな情報に惑わされ人権侵害に繋がることがないように、冷静な対応をお願いします。

ちなみにアメリカでは、出会いを求める

男女の間で元感染者がモテるそうです。これは感染の可能性がないため安全なお付き合いができること、苦難を乗り越えてきた経験を尊ぶ文化があるためとのこと。

新型コロナウイルスとの戦いは長期戦となってきました。今後もマスクをして飛沫を飛ばさない、3密を避けて換気をする、手を洗う、体調が悪いときは休む、といった基本的な対策を続けることが大事です。



乳和食をぐぐ存知ですか？

乳和食は「にゅうわしよく」と読みます。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、和食に牛乳をプラスした料理ですが、多くのメリットが見いだされています。

乳和食の話の前に、和食について考えてみましょう。2013年にはユネスコの無形文化遺産に承認されました。和食は次の4つの特徴を備えています。

(農林水産省ホームページより)

- 1、多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重
- 2、栄養バランスに優れた健康的な食生活
- 3、自然の美しさや季節の移ろいの表現
- 4、年中行事との密接な関わり

和食は一汁三菜を基本とし比較的、低エネルギーなので世界的にも注目され、過食や肥満の予防には有効です。しかし、和食にも欠点があります。塩分が多いこと、カルシウムが少ないこと、発育期や高齢者の食事としては問題がある可能性が指摘されています。

そこでカルシウムの豊富な牛乳を和食に加えることでカルシウム不足を解決することができます。牛乳のカルシウムは小魚や緑黄色野菜のカルシウムより体への吸収率が良いことも特徴です。カルシウムには丈夫な骨や歯を維持する働きがあります。カルシウム不足

は歯槽骨を弱め、歯周病を悪化させるリスクにもなります。いまや、歯周病は口の中の問題にとどまらず、歯周病菌が全身に回ること、動脈硬化を促進したり、糖尿病を悪化させる原因にもなると考えられています。

また、牛乳のみならず、乳製品は良質たんぱく質を含有し、低GI食品としても知られています。GIとはグリセミック・インデックス(血糖上昇指数)の事です。食後の血糖値の上昇度合いを示す数値でブドウ糖を摂取した時の血糖上昇率を100としており、数値が低いほうが血糖値は上昇しにくいこととなります。牛乳・乳製品はGI値55以下の低GI食品として知られ、血糖上昇が緩やかで、ご飯だけを食べた時のGI値よりご飯と牛乳を食べた時のGI値は低くなります。

その上、牛乳・乳製品には筋肉づくりに有用とされる、たんぱく質のロイシンが多く、高齢者のサルコペニア予防に効果が期待されます。サルコペニアとは加齢や疾患により、筋肉量が減少することで、握力や下肢筋・体幹筋など全身の筋力低下が起こることです。栄養不良によっても起こることが知られています。

一方、牛乳・乳製品に含まれる、たんぱく質を形成するアミノ酸の一種であるグルタミン酸やアスパルギン酸はうまみ成分の1つで

もあり、料理を美味しくします。私が管理栄養士として病院に勤務していた時の経験から、牛乳が嫌い、飲むと下痢をするなど高齢者に多く存在しました。しかし、牛乳として飲むことができない人でも料理に混ぜることで美味しく摂取できる可能性があります。

したがって、乳和食の知識を広めることは高齢者の栄養管理にも役立つことであると思っています。みそ汁、サバの味噌煮、豚肉の生姜焼きなどに牛乳を入れてみましょう。コクが出て美味しくなり醤油や味噌を減らすこともできます。好みによりですが、大さじ1〜3杯ほど入れてみましょう。

現在、私が勤務している広島修道大学では地域連携を大切にしています。授業では大学のある地域の高齢者に学生が立案したお弁当メニューを調理し配食を実施しています。これが大変好評で、高齢者からは、もっと学生さんに来てほしい、コミュニケーションをとってほしいとの声を多くいただいています。

そこで、授業とは別に少人数のゼミでは、配食の対象者に、牛乳・乳製品を使用した料理の効果を伝え、高齢者のサルコペニア予防や糖尿病を持つ人には血糖値管理に寄与し、より大学と地域との連携を深めていきたいと考えています。私たちは牛乳・乳製品を用い、和食のみならず献立を開発しています。例えば、スキムミルクは牛乳より長期保存が可能

豚肉と大根のスキムミルク煮



- 豚肉、大根、人参を砂糖、酒、醤油でいつもより薄味に煮ます。
- スキムミルク5〜10g(1人分)をぬるま湯で溶いて加えて煮ます。豚肉とスキムミルクでだしが出ます。
- スキムミルクで煮るので、薄味でも食べやすく、汁も飲むと美味しい。

このように、多方面から高齢者の生活を見直し、元気な高齢者が住む町づくりを大学から発信しています。



広島修道大学
健康科学部 健康栄養学科
教授 藤井 文子
宇和島市出身
きものを楽しむ会々長

お気楽 俳句

我が子や孫は、親や爺婆にとつて愛しい存在なのは当然。だが、俳句で可愛い可愛いと詠んでしまうと他人には、うんざりされる。子育て俳句、とくに孫俳句は、でれでれ句になりやすい。そこで、有名な句、現代の秀句&ユニーク句(笑)のご紹介。(小野更紗)

短夜や乳ぜり泣く児を須可捨焉乎
みじかよ ち すてつちまをか

竹下しづの女(明治20年生)

季語は短夜。暑苦しい夏の夜、乳を欲しがって泣く赤児。ああ、もつとささい！捨ててやろうか。反語表現で「いや、そんなことはできない」と含ませて詠んだところに母親の苦悩と情が感じられる。

萬緑の中や吾子の齒生え初むる
ばんりよく

中村草田男(明治34年生)

子を殴ちしながき一瞬天の蟬

秋元不死男(明治34年生)

春はあけぼの孫とはこんな皺くちや玉
長閑かな赤子の尻の穴眺め

一歳の目にたんぽぽの美味そつな

夏井いつき『皺くちや玉』(2015年刊)

いぬぶぐりの花びらほどの爪を切る
文旦へ這い這いの尻うごくうごく
静かと思えばシクラメンむしる子よ

神野紗希『すみれそよぐ』(2020年刊)

添い寝して吹雪の音を閉じ込める

瀬戸優理子『告白』(2017年刊)

魔女の声で王子を寝かす冬の星

井上さち『巴里は未だ』(2018年刊)

生みに行く子へ大粒の冬いちご

神楽坂リンダ『りんご飴』(2011年刊)

子を抱く月の光にあてぬよう

片野瑞木『夏井いつきの「月」の歳時記』(2018年刊)

つばえよる子から天花粉つけてやる

高須賀あね『がちゃがちゃぼん』(2019年刊)

てつぺんでさくらと叫ぶすべり台

中村阿屋『でこぼん』(2009年刊)

汗の子をつかまえ仕上げ磨きかな

穂積天玲『第4回歯びかちゃん俳句大賞』(2007年)

花種を撒く学校へ行けぬ子と

矢野リンド『噂のまなか』(2018年刊)

月光の廊下へ延びるプラレール

山澤香奈『線路とぶらんこ』(2013年刊)



絵：律川エレキ 1966年宇和島市生まれ
奈良市在住 2000年頃より俳句新聞や俳句マガジン等に挿絵を描く。映像作家

おすすめの本

日本の小さな本屋さん 和氣正幸 / 著 エクスナレッジ ¥1,980

宮脇書店宇和島店が昨年11月に閉店した。市民にとって文化的にも利便的にも大きな痛手となる。

本書では、全国のちいさくても個性的な23店の本屋を紹介している。猫の本専門店あり、古民家を利用したブックカフェ、本と器が集まる店 etc... 店主の思いが詰まった空間が広がっている。

大型店が次々と出店する、こんな少ない資本と小さなスペースで何ができるだろうと何度も役割を見失いそうになってきた。でも、ページをめくりながら紙媒体の文化を残したい！ そんな気持ちを大切に頑張ろうと改めて思った。



協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL. 0895-22-0528



作品名：『根』（鉛筆）
作者：山瀬 布貴（大人クラス）

光、風、水、砂、晒され続けた流木。
その遠い記憶を追う鉛筆の線。
走る鳥獣戯画にも見えてくる。
布貴さんはどこに向かって走るのか。



作品名：『ピアノ発表会』（水彩）
作者：生島 真伊（子供クラス）
金色に光るグランドピアノの大屋根。
空色ドレスを着た緊張のまいちゃん。
でも、今日はうれしい発表会。
動く指、会場いっぱいに広がる赤い音。



作品名：『カルガモのお引越し』（水彩）
作者：宮本 琉歌（子供クラス）

なかよしこよしカルガモ親子。
だんだん虫がだいすき、るかくん。
新しいお家でいっしょに探そうね。
軽々と自然に溶け込む子供の目。

■アトリエ堀端絵画教室（べにばら画廊）

宇和島市本町追手 2-8-6 TEL. 0895-22-1104 <https://benibara.webhop.info/> コメント：吉田 淳治



作品名：『アマリリス』（水彩）
作者：村田 菊美

描く花に命を吹き込むかの様に、
いつも真剣に丁寧に描かれている。
そして描かれた花に命が宿っている
かのような存在感。



作品名：『私の名前はオマケ』（油絵）
作者：西山 貞代

この表情！筆のタッチ！この絵を
見た誰もがグッときた。愛猫への
愛が感じられる作品。教室展のパ
ンフレットの表紙を飾った。



作品名：『可愛いね』（パステル）
作者：寺坂 ムラエ

なんとも愛らしい表情のトイプー
ドル。何度でも「可愛いね」って
言いたくなる。寺坂さんはいつも
穏やかに、素敵な絵を描かれる。
絵は心の表れなんだなあ。

■アトリエぱれっと <https://art-palette.wixsite.com/mysite>

宇和島市伊吹町字イカリ石甲 1083-1 2F TEL.090-7784-4703 yuka@art-palette.com コメント：清家由佳

●「現代ショートショート」の旗手」がちょっと不思議な予土線の旅へのご案内

愛媛県やJR予土線沿線市町で構成する「愛媛県予土線利用促進対策協議会」は、2月4日から3月4日までの毎週木曜日、あいテレビにて「予土のみじかな物語」を5回にわたり放送する。(放送時間は午後6時54分～)

愛媛県出身の人気ショートショート作家・田丸雅智さんが書き下ろした、予土線舞台の作品を映像化。

約2分間の「短かな」ストーリーをご覧になれば、より「身近な」路線となるはず。

「ショートショート」とは、小説の中でも特に短いジャンルで、「短くて不思議な小説」と称される。田丸さんは、現代ショートショートの第一人者として多方面で活躍中。そこで、今回の作品に込めた思いを田丸さんに伺った。

「実際の予土線を舞台にした、ちょっぴり不思議なお話をお届けしたいと思います。予土線をご存知の方から、ご存知ではない方まで、虚実が織り成す世界をお楽しみいただければ、うれしいです。」

◆田丸雅智さんプロフィール

1987年、愛媛県生まれ。

東京大学工学部、同大学院工学系研究科卒。

現代ショートショートの旗手として執筆活動に加え、松山市が主催する「坊っちゃん文学賞」の審査員長を務める。また、全国各地で創作講座を開催するなど幅広く活動している。著書に『海色の囀』『おとぎカンパニー』『マタビ町は猫びより』など多数。

田丸雅智 公式サイト：<http://masatomotamaru.com/>



● 黒田旗のぼり店 「手染め牛鬼タペストリー」

「牛鬼特集」でご紹介した、黒田旗のぼり店様から「手染め牛鬼タペストリー（売価 10,000 円）2 点を読者プレゼント

読者プレゼント
抽選で2名様

にご提供頂きました。黒田旗のぼり店は、創業 1904（明治 37）年の老舗で国の伝統的工芸品産業功労者褒賞を受賞、えひめ伝統工芸士にも認定されています。



ハガキまたは FAX で「手染めタペストリー（赤かグレー）希望」とご記入の上、住所、電話番号、氏名、年齢、性別を明記の上、本誌のご感想をお書きいただき「宇和島信用金庫 業務推進部 つなぐ読者プレゼント係」までお送りください。

■締め切り：2月19日

■送付先：〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-21
FAX：0895-25-8632

● 日々のおやつと とくべつケーキ こはく製菓

リニューアル
オープン

国産小麦、天然色素にこだわった美味しくて安全安心なお菓子を届けたい、の思いでリニューアルしました。当店の一番人気は、「クッキー＆チョコ」で、季節のフルーツを使った洋菓子も人気です。

- 住所／798-0006 宇和島市弁天町 3-2-1 ベルジュ弁天
- 電話／0895-49-3874 ※宇和島市総合体育館前
- 営業時間／11:30～17:00
- 営業／火・金（洋菓子、焼き菓子）水・木（焼き菓子のみ）

 @kohakuseika
(毎日更新中)

 <https://kohakuseika.jp/>

